

令和3年6月吉日

西ノ京中学校の生徒のみなさんへ

西ノ京中学校  
学校運営協議会

## はるかのひまわり絆プロジェクト

～お家でひまわりを育てませんか？～

西ノ京中学校運営協議会は環境美化委員とコラボして、昨年度「はるかのひまわり絆プロジェクト」に取り組みました。そして、秋に環境美化委員のみなさんが、美しい花を咲かせた「はるかのひまわり」の種を収穫し、乾かしてくれたものを保存していました。それを今年も学校の昇降口東側にある花壇に植えました。

それでも、まだたくさんの種が残っています。そこで、ひまわりをお家で栽培してみようという人に種をおすそ分けしたいと思います。「はるかのひまわり絆プロジェクト」の趣旨に賛同し、家でも栽培してみようと思う人がいたら、教頭先生まで声をかけて、種を分けてもらってください。（申出順としますので、種がなくなった場合は、お渡できません。ご了承ください。）

また、お家で咲いたひまわりを撮影した写真を提供してくれる人がいたら、写真の裏に学年・組・名前を書いて、教頭先生に渡してください。運営協議会を通じて、「はるかのひまわり絆プロジェクト」の活動団体に西ノ京中学校の取組として報告したいと思います。たくさんの人の協力をお待ちしています。

夏に、元気いっぱいにたくさんの花を咲かせてくれることが今から楽しみです。そして、ひまわりとともに、花に込められた思いがたくさんの人々の心に広がっていくことを願っています。

昨年度の収穫の様子



### 【はるかのひまわりの由来】

平成7年1月17日に、大きな地震が神戸を襲いました。木造の建物は、2階部分が崩れ落ち、1階は完全に押しつぶされてしまいました。はるかちゃんの遺体は、ガレキの下から発見されました。半年後、その場所に無数のひまわりの花が、力強く、太陽に向かって咲いているのを見た、はるかちゃんのお母さんは、「娘がひまわりとなって帰ってきた」と涙しました。近所の人たちは、この花を「はるかのひまわり」と呼びました。

はるかちゃんを助け出せなかった悔しい思いから、はるかちゃんと同級生の娘さんを持つ保護者の方が、「はるかのひまわり」を全国に普及させる活動を始められました。

「はるかのひまわり絆プロジェクト」には、この花を育てることを通して、災害の悲惨さや命の尊さについて考えを深め、「人の尊厳」や「人との関りの大切さ」を知ってほしいという思いが込められています。



© dail